

## 50周年、皆さまに感謝と御礼を申し上げます



会社の設立登記日が5月17日、宅地建物取引業の知事免許交付日が7月24日、そこから50年になりました。第一次オイルショックによる未曾有の大混乱の社会情勢のもとでスタートし、その後も不動産バブルとその崩壊や、リーマンショック等幾多の経済事変を乗り越えて今日に至りました。

正直なところ会社経営者に必要なヒト・モノ・カネを持ち合わせず、知識経験も足りずあったのは自分に対する信頼だけでした。周りの人や会社内外の人達の誠実な協力・支援に助けられ、ある時は土下座をしてでも局面を打開し、厳しい環境に対峙してまいりました。これまで言動を誤り、いくつもの判断ミスを犯し、会社存続ストレスも経験しましたが運にも助けられ、ただ今の業容を備え後継者につなげることができました。



売買・賃借・管理のお客さまをはじめ、お世話になったおひとり、おひとりさまに感謝と御礼のご挨拶を申し上げるべきところ、本欄をもってそれに替えさせていただきます。時々にご助けいただきまして、本当にありがとうございました。

50周年にあたり皆さまに心よりお礼を申し上げます。

岡本秀巳（社主）

## 経営理念にのっとり、これからも地域と共に

おかげさまで株式会社都ハウジングは5月17日をもって設立50周年を迎える事ができました。これもひとえに皆さまのご支援・ご愛顧・ご指導を賜ったからこそと、心から感謝しております。

また、西浦町に事務所がありました時代から会社を多少知っている人間の一人として、50周年を迎えたことに対して創業者である社主には、ここに至るご苦労に敬意を表する次第です。

50年企業に育てていただいた地域の皆様、お客様、お取引先様、社員の皆さんへの感謝を忘れず、今後の経営に取り組んでまいります。さらに総合不動産会社の特性を生かし、安定した質の高い会社事業を推しすすめ、不動産の活性化をはかる中から地域の発展に寄与し、これからも地域社会に必要とされる会社を目指してまいります。弊社の経営理念である「みやこ四方よし」と、信条の「明朗、愛和、喜働」などを踏襲し、社員一同皆様のご期待に添えますよう従前にもまして努めてまいります。



末筆ではありますが、皆様のますますのご健勝を祈念し、これからも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

岡本慎太郎（社長）



## 入社ご挨拶、メンテナンス担当します。

現場管理・軽作業・退去立会等を担当しています。内装関係の仕事の経験を生かして現場をいかにスムーズに業務を行なうことができるかを考え、新しい分野にもチャレンジしていきたいと思っております。よろしくお願い致します。



（工務担当 前田昌伯）

## 社休日

5月15日（第3水曜）  
17日（設立祝賀）  
6月19日（第3水曜）

休日時間外TEL

0800-919-6501

## 福祉不動産の紹介①居住支援の取り組み

当社は昨年2月に京都府から居住支援法人に認定され、従来より取り組んでまいりました京都市高齢者すまい生活支援をはじめ、活動の幅を広げ、色々な居住支援に関する会議等に参加しております。住宅確保要配慮者とは、高齢者・障害者・シングルマザー等のような一般に住宅を借りようとしても入居先を探すのが困難な方のことを言います。



私が居住支援の活動をする中で、最近出席する会議等でよく話題に上がるのが、住宅確保要配慮者に関する法律等の改正が閣議決定されたことです。これは国土交通省と厚生労働省の連携した取組で、注目点は①家賃債務保証業者の認定制度の創設と②居住サポート住宅の認定制度の創設です。①は住宅確保要配慮者の利用する適切な保証事業者を行政が認定するという内容です。

②は新たな事業として、居住支援法人等が入居後の支援を行う事案のうち適切な物件を居住サポート住宅として認定するという内容です。

これらを実施することにより、大家さんの不安を軽減し、住宅確保要配慮者の受入先を増やしていくのが狙いですので、居住可能物件の増加を期待するところです。

実際の事業開始にはまだまだ時間がかかるとは思いますが、弊社としては動きに遅れをとらないように居住支援のすすめ方を常に見直していく必要があると感じています。

(福祉不動産担当 新居功己)



## ②福祉施設入所紹介「ウチシルベFC」

突然ですが「将来の不安は何か」と聞かれたら、皆様はどう答えられますか。メットライフ生命の「全国47都道府県大調査2023」によると、回答のトップは「老後の生活」62.3%、「年金」50.1%、「介護・認知症」が48.4%と続き、「お金の準備において最も重要と思うもの」の問いでも「老後の生活」という回答がトップとなっています。

個人差はありますが、いつかは介護を必要とする時がまいります。家族が介護状態になったとき、自身も家族も9割が「不安」を感じています。その内容は介護してくれる家族の精神面、次に体力面、生活面と続き家族にかけてしまう負担を心配しています。

ただ今は「介護への思い込み」に捉われない、従来の「べき論」から「新しい介護」へ移行する過渡期にあると言えます。介護が必要になった高齢者を社会全体で支えるのが、現在の「介護保険制度」です。2000年に創設され、それ以前は介護は家族が担うのが当たり前の時代でした。そこにはアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込みや偏見）がありました。

それから20年、介護への意識も変わってきましたが、「家族以外の人に世話になるなんて恥ずかしい」という意識や、かつての「家族がすべき」という思い込みの方も少なからずいら



っしゃいます。介護に限らず、うれしくない未来には目をそむけたくなるし、不安に思うものです。「施設に親を入れるなんて親不孝」と思い込んでおられた方から、「施設に入居したら親子関係が円満になった」というお声をいただくことがあります。

他人の手を借りる、助けってもらうことは決してみじめなことではなく、「お互いに最適な選択」という認識が広がっていくことを望んでいます。

(福祉不動産ウチシルベ担当 栗津真由美)